

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24720070

研究課題名(和文) コミュニティ創成における即興音楽の役割

研究課題名(英文) The role of musical improvisation in community development

## 研究代表者

沼田 里衣 (Numata, Rii)

神戸大学・その他の研究科・研究員

研究者番号：10585350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、知的障害者を含む既存の音楽コミュニティの調査と新しいコミュニティを創成することを通して即興音楽の役割を探求するものである。即興音楽には、演奏者同士の非言語的コミュニケーションを促すという対話的側面、そしてまだ見ぬものをその場で作り出すという創造的側面がある。こうした即興音楽の特徴は、多様な価値観や技術の差異を含むコミュニティを創成し、継続する際、それらを包含しつる形態として有用であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research is to explore the role of musical improvisation by investigating various music communities that focus on improvisation and thereby generate new forms of community participation. The characteristics of musical improvisation include creativity that engender something unforeseen, as well as conversational aspects that foster non-verbal communication between players. These characteristics are valuable to create and sustain a community that includes various values and different levels of techniques.

研究分野：人文学

キーワード：コミュニティ 即興音楽 音楽療法 コミュニティ音楽療法 障害者

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、地域コミュニティの弱体化や福祉社会の意識の高まりからコミュニティ創成や居場所作りの重要性が指摘されており、芸術に対してもその社会の課題解決に果たす役割にますます期待が高まっている。しかしながら、価値観や技術の差異を含む音楽コミュニティを創成する際の困難は依然として多く、コミュニティに即した芸術形態が考えられているかという点は、ほとんど見過ごされてきた。報告者は、障害者を含む多様な人々が参加する音楽コミュニティにおいて、音楽の創造性がどのような役割を果たすのかを実践と理論を往復することにより考察を進めてきた。そのなかで、特に知的障害者とミュージシャンによる音楽グループの調査からは、多様な価値観を包含・交換するものとして即興音楽という音楽形態が効果的に機能しているのではないかと考えるに至った。価値観のずれそのものが、まだ見ぬものを生み出そうとする音楽上での楽しさとして受容される場面が見られたからである。

(2) 障害者を含むコミュニティにおける音楽活動に関する研究に、コミュニティ音楽、コミュニティ音楽療法、音楽教育等があるが、それぞれの領域の交流は少なく、実践領域においても音楽療法、福祉領域における音楽活動、バンド等の音楽活動等の近接領域が交流する例はごく少ない。こうした状況から、領域を横断した視点から地域の文化背景を踏まえて参加者にふさわしい音楽のあり方を探求する必要性があった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は、障害者を含む多様な音楽的価値観や技術を持つ人々によるコミュニティ創成の場において、即興音楽が果たす役割を解明することが目的である。

関連する実践領域に、コミュニティ音楽療法、コミュニティ音楽、即興音楽がある。

音楽療法研究においては、従来セラピストクライアントという限定的関係で病院や学校などの特定の場所で実践が行われ、その効果や意義に関して研究が行われてきたが、1990年代より社会における様々な人々と関係しながら行われる実践が頻りに報告されるようになった。それに伴い、治療観や治療する者-される者という関係性についても再考が迫られている。こうした状況において、その地域の文化背景や参加者の事情を考慮した上で、音楽形態をその都度考えていくことの重要性が指摘されている。

コミュニティ音楽の領域においても、音楽教育家、音楽家や文化政策担当者により障害の有る無しに関わらない音楽活動の方法が多様に模索されているが、芸術と福祉という

二項対立的な視点から意味づけされることが多く、新たな視点を提供する議論が求められている。また、活動の評価法や組織運営を含めた実践上での具体的な方法論も求められている。

即興音楽研究は、民族音楽を始めとする様々な即興音楽に関する構造分析を基本としたものが多いが、未だに研究上の困難さが指摘されたままであり、様々な文化に伝播していくことにより絶えず変化する動的な形態と捉えて考察したものは少ない。一方で、即興音楽家の中には教育・福祉領域で活動し、そうした音楽に独自の美的価値観を見いだす例もある。

以上の状況から、本研究では、障害者を含む即興音楽を用いた活動について、領域横断的な視点からその意義や役割を分析し、実践に生かすための方法論を導き出す。

(2) 以上より、下記の課題を設定する。

即興音楽をコミュニティやグループ活動に応用した各領域における事例報告を分析し、即興音楽の意義がそれぞれの領域でどのように捉えられているのかを考察する。これを、実践研究を進める上での基礎とする。

即興音楽をコミュニティ活動に応用するための具体的な方法論をまとめる。

即興音楽を採用する国内外の事例を調査・観察し、文化背景と音楽形態の関連を分析する。

即興音楽の意義について多角的に捉え、考察するため、即興音楽とコミュニティに関連する異なる領域の研究者・実践者と交流し、意見交換を行う。

## 3. 研究の方法

上述の目的・課題のため、下記の方法で研究を進める。

(1) コミュニティ音楽療法における議論に障害学や対話に関する議論を取り入れ、支援する者-される者という関係ではない関係性のあり方を模索する。

(2) 知的障害者と音楽家による即興音楽グループ「音遊びの会」の活動において、参加者同士の意見交換から音楽形態にふさわしい組織のあり方を議論する。この調査から得られた知見をベースとし、地域社会で即興音楽活動を基軸とした障害者を含むコミュニティ創成するための方法論を導き出す。

(3) 即興音楽に関連する音楽療法、コミュニティ音楽、即興音楽などの実践領域を横断するコラボレーションを実施し、各領域の指導的存在の実践者と即興音楽の意義に関する意見交換を行う。

(4) 障害者を含む新たなコミュニティを創成し、即興音楽の機能について調査・検証する。

(5) 国内外の学会や研究会に参加し、即興音楽を評価する用語の開発とその役割について検証する。

#### 4. 研究成果

(1) 障害者を含むコミュニティにおける音楽活動のあり方について、世界の様々な事例報告を検討し、その地域文化における課題と用いられている芸術形態について調査した。このうち、参加の方法と音楽の形態等の点から考察した者を図書にまとめた。また、より具体的な即興音楽を用いたコミュニティでの活用方法については、学校や施設等で活動する指導者等に向けた月刊誌「Recrew No.650-659」(日本レクリエーション協会)に10回の記事としてまとめた。

(2) 即興音楽を主に行う「音遊びの会」において、参加メンバーである知的障害者とその保護者、様々な領域の音楽家や舞踏家に対して、参加動機や音楽的価値観に関するインタビューを実施し、障害のある人とない人の関係性のあり方とそこで生まれた音楽に対する評価について考察した(論文)。この内容は、「新しい音楽の作りかた 音遊びの会と西成プレーカープロジェクトに訊く」というタイトルでの鼎談を元に書籍化したもの、「学校で教えてくれない音楽」(大友良英著、岩波書店、2014年)にもまとめられている。また、月に2回定期的に行われるワークショップの進行方法や内容について、参加者が互いに楽しく参加でき、豊かな音楽活動を可能にする方法を参加者同士で議論し、改良を重ねた。これらの内容は、日本音楽即興学会のラウンドテーブルで実演とともに発表し、音楽学者を交えて意見交換を行った。

(3) イギリスを中心としたヨーロッパにおける類似の活動について調査し、領域横断の実践的取り組みとして、即興音楽文化、音楽療法、コミュニティ音楽を横断するイギリスツアーを行った。それぞれの場でのプログラムは以下の通りである。

##### 【ライブハウス】

ロンドンにある実験的音楽を紹介するライブハウス Cafe Oto で、音遊びの会のドキュメンタリー映画の上映とトークショー、2回のライブを行った。トークショーでは会場の観客と意見交換を行い、ライブではロンドンのミュージシャン3名を迎え、コラボレーションを行った。

##### 【音楽療法センター】

ロンドンのノードフロビズ音楽療法センターにて、音楽療法士とのコラボレーションワークショップを行った。

##### 【コミュニティ音楽団体と協働】

グラスゴーの現代芸術センターにて、知的障害者を含む3つの音楽グループ、Sonic Bothy、Sense Scotland、Artlink Central とコラボレーションワークショップを行い、ワークショップの内容をコンサートとして発表した。また、音遊びの会の映像紹介と共にコラボレーション団体のリーダーとトークショーを

開催し、観客を交えて意見交換を行った。



写真1 音楽療法センターにおけるコラボレーション



写真2 ライブハウスにおける即興音楽家とのコラボレーション

これらの内容は、準備状況と凱旋公演の内容も含めてNHKによりドキュメントされ、Eテレで2回の番組と1回の特集番組として紹介された。また、図書その他、福祉団体の発行する季刊誌「戸山サンライズ 2014年夏号」においても紹介し、神戸大学国際文化学研究所異文化研究交流センターの主催の研究会などで発表した。

(4) 上記の成果を持って、新たに音楽、舞踊、美術、演劇等の様々な表現を包含する新しいコミュニティ「おとあそび工房」を創成し、舞台発表を行うまでのワークショップの様子を観察し、即興性の果たす役割について検証した。この内容は、日本音楽即興学会で発表した(学会発表)。

(5) 言葉と音楽の両領域で対話に関する研究・活動する臨床哲学の専門家と会話分析の研究者を招聘し、シンポジウムを行い、意見交換を行った。

以上のように、障害者を含むコミュニティ創成における即興音楽の役割について、実践領域における領域横断的な試みと検証、及びそこから得られた知見を元に即興音楽の意義についての理論的研究を進展させることができた。こうした内容は、コラボレーショ

ンワークショップの実施、テレビで紹介されたことや公開ワークショップの実施により、コミュニティ音楽を行うためのリーダーが各地で育ちつつあることも特筆すべきことである。

今後の課題として、音楽を繰り返すことにより形成される暗黙のルールやイディオムとそこからの逸脱が、コミュニティ内外の文化的価値観や倫理観との関連からどのように作用しているのかをより詳しく調査し、障害者等の社会的弱者を含むコミュニティの文化活動のあり方について研究を進めていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

沼田里衣、コミュニティ音楽における創造性と参加者の関係性に関する一考察 「臨床音楽学」の構築に向けて一、一般社団法人日本BGM協会 JBA資料45、査読無、45巻(2013) 1-19

〔学会発表〕(計6件)

沼田里衣、無目的なコミュニティ：即興表現が語るもの、日本音楽即興学会 2012 年度大会、2012 年 09 月 23 日、神戸大学

沼田里衣、臨床音楽学研究：創造性を重視したコミュニティ音楽療法における個々の現象から体系化へ向けて、第 13 回日本音楽療法学会学術大会、2013 年 9 月 8 日、米子コンベンションセンター

Rii Numata, “ ‘ Who considers this to be music? ’ : The Role of Musial Improvisation in Community Activites ” Paper presented at the Symposium “ What helps the cognitively disabled to enjoy music activities: towards improved quality of life-long development ” , 3rd Asia Pacific Regional Conference of International Association for the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities, 2013.8.22, Waseda University, Japan.

沼田里衣、評価者は誰か? : コミュニティ音楽療法の実践から、自主シンポジウム「音楽療法をどう評価するか?」にて発表、第 14 回日本音楽療法学会学術大会、2014 年 9 月 20 日、名古屋国際会議場

沼田里衣、コミュニティ創成における表現の即興性が果たす役割、日本音楽即興学会 2014 年度第 6 回大会、2014 年 12 月 14 日、京都精華大学

沼田里衣、コミュニティ音楽活動における音楽的対話：多様な価値観の交換の場、(自主シンポジウム「融合する言葉と音楽」にて発表)、日本発達心理学会第 26 回大会、2015 年 3 月 20 日、東京大学

〔図書〕(計2件)

沼田里衣、コミュニティと音楽活動、臨床が変わる！イラストでわかる目からウロコの音楽活動、三輪書店、2014 年、215 頁(担当分 17 頁)

沼田里衣、領域を超えた取り組み、発達障害白書 2015 年版、日本発達障害連盟編、明石書店、2014 年、200 頁(担当分 1 頁)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

沼田里衣 (NUMATA RII)

神戸大学・国際文化学研究科・協力研究員

研究者番号：10585350

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし